哈 喬さんの日記

One night in Tokyo

2007.09.05

I feel very nice in Japen just like at home.Japense are all friendly than I thought.I will enjoy the experience of study in Japen for one year.

It is me!

2007.09.24

新楽章 今日は初登校日でした。どう表現したらいいでしょうか。まるでまだ休みの続きのようで全く緊張感が有りませんでした。私は普通クラスではなく、さまざまな国籍の学生が在籍するクラス(アメリカ、ドイツ、スウェーデン、アイルランド、カナダ、タイと中国)で彼らと一緒に日本語を学ぶのです。私達は世界各地から来て、ここで同じ教室で机を並べ一緒に日本語を学ぶというのはなんとも不思議な縁とでもいいましょうか(その上男子女子とも美男美女ばかりです。みんな鼻が鼻く目元くっきりのコーカソイド人種です)。みんな兄弟のように親切にしてくれました。私達はまず自分の母国語を教えあいました。でも彼らの日本語のレベルは中国からの留学生のそれには及んでいません。なかにはひらがなもおぼつかない学生もいます。先生は私になるべく早い時期に普通クラスへ編入するようすすめてくれました。でも自分としてはもう少しの間このクラスにとどまりたいのです。というのは、彼らは正統派英語を話すので、英語のスピーキングの練習をしたいからです。hehe。休み時間はにぎやかです。朝9時から授業が始まり、午後1時半には下校です。これまで日の出から日没まで休み無しの生活を送っていた私達にとっては学校に行ってないも同然のようです。少しなれません。でもおかげで英語と日本史を勉強する時間がたっぷり取れそうです。　日本史を学んでいくと、あらためてこの偉大な民族に畏敬の念を抱かざるを得ません。自己を厳しく律するとともに、思想に優れ勉強好きです。大航海時代、開国を迫られた際、日本と中国は全く違った選択をしました。もちろん、それぞれの国情の違いも大いに関係有りますが、日本人は自分達に足りないものを自覚し、それらを積極的に学び取ろうとしました。日本は強いものを崇拝できます。二千年前の遣隋使、遣唐使の時代から近代の欧米の使節団に至るまで、日本は絶え間なく自分達が充分な強者になるまで学ぶ努力を怠りませんでした。これは中国でも昔から言われる「师夷长技以治夷」という言葉ともぴったりあいます。中国五千年の歴史の残滓、華やかさが増すにつれつもりゆくよどみ、まさに鏡の表裏のようでこれを変革してゆく為には気の遠くなるような時間が必要です。日本のこのような外来のものを受け入れていく文化は、日本の近代化を促す大きな原動力になりました。もちろん、このような文化形態がすべてにおいて評価できるわけでは有りませんが、日本は西洋の先進文化を学ぶだけではなく、軍国主義思想も膨らませアジアの民衆に深い傷も残しました。この二日間学んだことを通して（このとき既に自分は普通クラスに編入して二日が過ぎました。PCの不調の為ここ何日か作業できなかったので。周沢陽さんの協力無しにはみんなに日記を公開することも出来ませんでした。感謝感謝！）一番印象に残ったのは茶道のクラスです。私は以前に日本の茶道が発祥地である中国のそれをしのぐほど知名度を上げた魅力はどこにあるのかを確かめたいと言いました。実は、このふたつは全く別のものです。中国の茶道が求めるものは「芸」で、作法から茶器、お茶を淹れる水にいたるまでさまざまな茶葉に対し一派を成すこと、全ての茶芸の過程は「美」への読み解きをめざすものなのです。私はこの中国茶道の粋と優美なこの感覚を心から賞賛しています。骨董の典雅な陶器のなかで清水に柔らかな茶葉が広がる様子、かぐわしい香りをいただき、いにしえのように月の光の下、詩を吟ずる日々。一方、日本の茶道はというと、これは「道」をきわめるものです。「侘び寂び」が一貫してつらぬかれた基本精神です。例えばお茶を飲むことは夏に涼を冬に暖をとる、これぞまさに「心静かに、涼し」という境地のあらわれです。この他、茶客、さらには茶道具にまでにたいする感謝の念をもつこと、なぜならこれは一期一会のことであり、神の恩恵にも感謝をするのです。日本の茶道の作法はとても複雑です。まるで茶を飲むことは二の次のような扱いです。ただ、お茶を飲むだけではなく、これは一種の無我の境地でもあるのです。老子にいわく「同じきこれを玄と謂い、玄のまた玄は衆妙の門なり」。あえて言わせていただければ、色や香りといったものだけではなく、日本のお抹茶は中国の茶とは同列に論ずることは出来ない、といったところでしょうか。全く、日本人は外からのものを取り込み、自国のものに昇華させてしまう能力をもっているということでしょう。　今私は女子クラスに在籍していますが、クラスメートには話に聞いていたような派手でけばけばしい人はいません。みんな活発で明るいいい子達ばかりです。勉強があまり好きでないこと以外は友達として素晴らしい人たちばかりです。意外だったことに、クラスメートには二人の中国人もいました。もちろん、すぐに仲良くなり、彼女達は私の不安を取り除いてくれようとしてくれました。そのうちひとりの中国人クラスメートが日本でのこれまでの6年間の生活を話してくれました。ひらがなさえ知らないところらからはじめこれまでがんばってきたとか。その話を聞いて私も困難にまけないぞという思いを新たにしました。私がいるクラスは文系なので世界史、日本史、古文、現代文などの純日本教科だけではなく、韓国語やスペイン語も（もちろん英語も）履修しなければならず、私は韓国語を選択しました。以前全く勉強したことがないのに日本語で韓国語を学ぶことになりこれは本当に大変な挑戦です。他にも頭がいたいのは日本史と古文で、日本史に出てくる人物のややこしい名前と年号がなかなか覚えられないのと、古文にでてくる日本語はさっぱりわかりません。この二教科と数学や生物のどちらがたいへんかを考え、頭を抱えてしまいました。もどってから理数系をやろうとしても無理だろうし。まあ、うらみつらみばかりいっているのは性に合わないので、履修する科目は出来る限りがんばろうと思います。中国では文系にはかなり自信が有りました。同じ地球の上なんだし（hehe,大きく出てしまいました。こうやって自分を振るいたたさなくては）来週のテストは受けなくていいそうです。よかった！でも試験問題は先生からもらって自分では試してみようと思います。ぶらぶらしていることだし、TOEFLの試験勉強以外はなにかやれることをさがしましょう。　この日曜日は周沢陽さんと、仙台に映画を見に行ってきました。ナルト疾風伝です。お慕いする日向ネジ様にお会いできたことのほかに、字幕がなくても結構聞き取れたことに感動しました。やはり実戦は効果ありますね。国際交流基金が私に今回くれたチャンスに感謝しています。アニメばかり見ていません。自分の成すべき事は交流と勉強ということは片時も忘れていません。でも日本語のレベルを確認する為映画館にいくぐらいはいいでしょうか？ok?（笑）　wa!もう10時です。明日の予習があるのでこのへんで。８８６！beybey

哈 喬さんの日記

気持ち

2007.09.27

仙台で私が最も美しいと感じるのは大空です。聳え立つ高いビルも、派手なネオンも無く、かわりにここにはまじりっけの無い透き通ったガラスのような大空と刻々と変化する雲があります。 夕方になると、私と周さんは敬虔な気持ちでカメラで創造主の作り出したこの素晴らしい一幅の夕焼けの風景を記録しに行きます。夕日に映えて雲がその姿を変えてゆく様は言葉も無いほどの美しさ、魂が打ち震えます。火のような赤、白、緑へは変化し、紫色は滝のように垂れ下がる藤の花の房のようです。金色は皇帝の冠、夜霞の様子はオリンポス山の神々の宴、もしくは彼らが人類に贈る祝福のようです。もしくは南天門の飛仙達が舞戯れる様、天地は遥かに、静寂が支配し、あわやかな光は古代のたおやかな記憶を召還するようでついそれに手を伸ばしたくなり、でもそれは儚く瞬く間のもの。カメラではこの心に染み入る美しさすべてを記録することは出来ません。周さんが手を入れてくれることで写真の色彩はいっそう鮮やかになりますが、実際この風景を目にしたものだけが心が洗われうっとりするこの感覚を味わえるのだと思います。時には昼の雨が夕にはあがり空のかなたに鉛色に垂れ込める厚い雲が眺められ、何層にも重なった雲の間から日の光がするどい槍のように地上にふりそそぎ、灰色の雲にさえ金の光が映っている。光と闇がこの世で一体になった素晴らしい芸術作品で、比肩するものも、言葉で表すすべもありません。 夕日はいつ現れるか予測不可能で瞬間しか捉えることが出来ません。ここはもう７時ごろには完全に夜の帳に覆われます。郊外だからでしょう。都市部のようなクラクションの喧騒も無くここの夜は静けさだけです。夕食後、時には黄昏時の小道に散歩に出ます。虫の声が鳴き響き、植物の馥郁たる香りが充満しています。このとき雲が無ければ月が眺められます。光が降り注ぎ、そよ風を受けながら水面に映えるような美しく夢のような月を眺めます。雲が出ていれば月をいだいた雲は月の接吻をひとりじめです。たまに光が漏れてきて、周りに七色の光を反射させます。幽玄華麗ですべてのものはその美しさの前では色を失うのです。こんばんは幸いなことにこんなに美しい月を眺めることが出来、自然の神からの恵みに感謝し黙想をささげました。 秋はまもなくというのに、まだ夏がこの地にとどまっているようで木々は緑に萌え昼は灼熱のようで暑さにすっかり参っています。夕方になるとやっと涼しい風が吹き始め秋の雰囲気がようやく訪れます。でも雨が降るとまた違った風景が現れます。湿気がこもり通学路はぬかるみ、この天気は私を憂鬱にさせます。灰色の空は私の気分を沈ませます。 ホームシックになることもよくあります。古文の中の日本語が分からない時、英単語がすべて暗記できないとき、大雨が降って傘を持っていない時、遊びにでて疲れてもう歩けなくなったとき、深夜皆が寝静まったのに自分はなかなか寝付けないとき。家は心を休める場所です。旅人の運命は南へ戻る渡り鳥のようです。夢にみた故郷にいつか戻り、羽を休め、傷を癒し、過酷な冬をすごすのです。しかし、今なら私も当時の余光中氏の気持ちが少しは分かりそうです。故郷を思う気持ちはどうしても心の中から拭い去りきれないもので、なにかの妨げになるということではなく、これは人の感情の一番脆くて弱い部分だからでしょう。。 あと約20日で私の17歳の誕生日です。思い起こせば学校に上がってからあまり家族と過ごした記憶がありません。それはずっと寄宿舎でその日をすごしていたからで、みんなも私もその日を忘れていたことも有るぐらいです。今回は誕生日がやっと日曜日にあたり、皮肉なことにその日を故郷を離れた地で迎えるのです。でも平気です。誕生日は何かの日、ということではなくただの形式的な記念日に過ぎないのですから。その日が過ぎようがどうしようが、時間を戻すことなど出来ないのですから。道教にいわく、運命はあらかじめ定められたもの、１年たてば生きている時間が１年短くなるのだからなぜこれを祝わなければならないのか、と。誕生日が唯一私に与える教訓は、おまえはもう一人前なのだから今後の人生のことを考え、独りよがりの夢は追うなということです。でも、私は明確な目標に向かっていくことを歓迎しています。それは私の人生をより充実させたものにし、人生における価値の確立に役立つのです。つらいこともありますが、自己を高めてゆくことになるのです。（重い話題になってしまいました。川端康成の小説のせいでしょうか。こんな長い文章にお付き合いくださった皆さんに感謝です）最近みんなは試験に参加しているでしょうか。私は参加せず、外国人たちの日本語を勉強する手助けをしています。生活もだいぶ落ち着いています。自分は国の同じような年齢の人たちに比べてもずっと幸せだと思います。勉強がらくだから、という理由ではありません。自分のために勉強する時間は惜しみませんから。試験のために勉強するのでもありません。この自由を謳歌しましょう。私と３７人の仲間だけが享受できるもので、それもあと１０ヶ月の間だけなのですから。　以前一緒だった４３人の仲間のことを思い出しました。みんな元気でしょうか？１２７ルームのみんな、シグマ２組、それと‥‥

哈 喬さんの日記

友達

2007.10.02

友達 いわく人生には“4つの喜び”があるとか。久し乾きに逢う甘露、異郷で旧友に会うこと、新婚の夜、試験に合格した時。 だから、私が日本で知り合いに会えたときの喜びを想像できるでしょうか。彼女は山東省から来て、11歳の時両親が離婚し、お母さんは日本に定住するために日本の男の人に嫁いで、彼女も母と一緒に来てここで学校に上がりました。11、12歳の子供はまだいたずらざかりの年齢で、来た当初、彼女は全く日本語がわからなかったのでよくいじめられたそうです。儀父との折り合いも悪く毎月の３万円ほどの生活費も彼女の実父が負担したそうです。当時彼女は夜になると一人で泣くことが多かったそうです。11歳の子供には早すぎる人生の試練だったでしょう。運命は彼女に数々の不幸を与えましたが、彼女は決して負けませんでした。6年の壮絶な努力で、今の彼女はクラスの中で不動の上位5名に名を連ね、先生達もみとめる優等生で、その上明るく、独立精神にあふれ、積極性にとみとても強い人です。私はこんな人が大好きです。私は幸せな家庭に育ってしまったので、両親の庇護の無い生活なんて想像も出来ませんが、もし彼女のような境遇になったとき彼女のように勇敢に困難に立ち向かっていけるか自信はありません。いつも彼女の為に何かしてあげられるかと考えてしまうのですが、せめて経済的な負担を減らしてあげられないか、でも彼女がそれを必要としてくれるか、分からないのです。私たちは毎日４００円分の食券をもらうのですが（多すぎです。私はそんなに食べられないのですが）、それを彼女がうちから持ってきてくれる中国の料理（たまには違う料理を頂くのも大事です）のお礼にしています。彼女は私の生活を手助けしてくれ、たとえば日本でのタブーやマナー、どこで買い物するのがいいのかをおしえてくれたり、彼女のおかげで多くの日本の友達が出来、いろいろな新しいこと、面白いことも教えてくれました。まちがいなく、彼女のおかげで私はここの生活にこんなにはやくなれることが出来たのです。ただ私の日本語は他の人たちに比べてなかなか上達しません（だってここでは中国語、日本語も英語も話す機会は同じくらいなのですから）でも大丈夫です。毎日夕食の時間まで図書館ですごしていますから（そんなに意外なことではないでしょう）、そこで原書の川端康成の小説や源氏物語を読み、勉強をしています。 最近どうしてしまったのか、コンピュータの前に長く座っていると右目がすごく痛んできます。ので今日はここまでに。ほんとうは日本のアニメ・漫画のことを書きたかったのですがそれは次回に。 9月25日 名前 名前、それは人々がこの世界に存在していたのだということが証明できる記号で、近しい人々にある種の感情（願いあるいは祝福）を与え、ある意義、甚だしきに至っては人の一生の運命を予知させるものです。幼い時から成長するまでどこに行っても人々によく知ってもらう為のものです。「哈」という姓は珍らしいです。でも世界的に有名な2つの大学の“ハーバード”“ケンブリッジ”には上記の字がふたつとも含まれます。（そのほか、“喬”は古代の才女と美女の名前だそうです。ちょっとがっかりさせてしまいますね。）ですのでこの名前に抱く私の感想は悲喜こもごも。同級生たちは私のことをすぐ覚えてくれますが（そのうえ忘れにくいし）、悪意善意にかかわらず多くのあだ名が付いてしまいます。でも日本人はこの名前に対してあまり反応してくれません。初めはみんな申し訳なさそうに「すいません、もう一度お名前をおっしゃってください」とよく聞き返されます。それと、中国語の“喬”の発音はなんと日本語の中で蝶（ちょうちょう）の発音と同じだと知ったのです！そこで私は新大陸を発見したかのようにこれを周りに言いまわり、みんなから“かわいい！”しっかりと賞賛してもらいました。面白いことに、JSLの教室には10ヶ国余りからの留学生がいますが、私の名前は全部で7種類の書き方があるそうです。彼らの分類によると：ちょうちょう，こうきょう，はきょう(漢字で哈喬です）、ChoCho（アイルランド語），しょうこ（福建省南部言葉の発音に類似しています）、Santosa（英語名）、それと韓国語（入力できません）です。複雑でしょう。でも私はとても気に入っています。みんながそれぞれの方法で私のこの覚てくれます。みんなとの友情もさらに深まりました！以前、ふたりのシンガポール人が日本語の外交授業で英語で日本の先生と話していたことを（私達は英語を日本語に翻訳しました）思い出しました。それが国際人っぽい感覚を味わった初体験です。世界は狭い、地球は一つの村！ 風雲 今日の空に目がくらませられました。群雲はまるで海の深い所からの濃い藍色を現したようで、また誰かが天に水墨画を描き出したようです。日の光が隙間からこぼれ、遠くの山の端が霞の中から現れたかのようで綿々と蒼が連なっています。触れられそうな空、まるで一場の夢の情景のようです。猛烈な風が私を現実にひき戻しました。秋の気配をはじめて感じました。記憶によればこのような風は春にあらわれるべきで雪は解け新しいせいめいのたんじょうをはぐくみます。私の故郷では秋季の風はさわやかで、夏を名残惜しがって、冬への期待、空を晴れ渡らせ渡り鳥が飛ぶすがすがしさをあらわすようです。ここの風は天に雲を描き出すように豪快で一幅の印象画の絵画を描き出すかのようです。もし故郷の風を芳紀28少女だとすれば、“ヤナギの岸の暁風の残月”を歌い、ここの風は酒に酔った李白の“君不见长江之水天上来，奔流到海不复回。の詩のようです” 9月28日 哈喬お姉さんはよく書けていて、でも私だったら心の中にしまっておきます。自分は男子だから？ 追記（周澤陽） 10月1日 夜23時10分

哈 喬さんの日記

Return

2007.12.08

ずいぶん日記を書いてなかった。みんな元気？最近はずっとテストの準備をしてるの。私は文系だから全部暗記もので、ここ何週間かはほぼ毎日１２時過ぎにならないと寝れない。正直日記を書くような気分ではないんだ。だけど準備もばっちりだし、今回の試験にはすごく自信がある。来週には結果が出るから、期待しててね。　私もついにhomestayの経験が出来たよ。こんなに長い間ずっと一人で寮生活をしてきて、やっと懐かしい家庭の温かさ感じることができた。私は初めて本物の日本式家庭に住んだけど、中国の家庭とは全然違うんだね。これについてはまた詳しく書いて皆に紹介するね。だけど今回の目的は京都と大阪にいるクラスの皆に連絡をすること。白雪、杜航、小白、皆どこにいる？１２月１９日に皆のところに旅行に行くからね。すごく会いたいよ。時間も迫ってきてるから出来るだけ早く連絡してくれると嬉しい。日記に書いてくれればいいから。ついでに皆の所のおもしろい場所を教えて、私達まだ行く所決めてないんだ。でもなるべく早くね。月曜日には決めるから。返事待ってます。

哈 喬さんの日記

雪燃ゆる

2008.01.31

平成20年1月24日、北風が吹き荒れ、雪が舞い狂い、天地は混沌としていた。 一面荒れ狂う中、やっとのことで歩いていく人の姿がかすかに見えた。冷たい風は刃のように彼女の露出した皮膚を切り裂くようで、ただただ、しびれているとしか感じられなかった。彼女の後ろに残る浅い足跡は荒れ狂う風にすぐに吹き散らされ、全く痕跡が残らなかった。 時間がとっくに止まっているのか、それとも無限に伸びているのか分からず、両足は凍えて全く感覚がなくなり、何が彼女をそのように前に進ませるのか分からなかった。遠くには明かりがちらついているのが見えるが、向こう岸になかなかたどり着けない旅人をあざ笑っているかのようだった。 彼女はただ前に向かって歩くしか他になかった。 彼女は妄想し始めた。 自分は強靱な美しいお姫様で、王子が魔法にかかり、愛する王子のため、吹雪の中を、深い山中にいる巫女に会いに行くのだ。 自分は伝説の中の仙女で、寂しく孤独な老人のふりをしているが、善良な人の息災を祈り、私利私欲をむさぼる人を厳重に処罰するのだ。 自分は武功に優れた侠客で、高らかに歌いながら、長い剣で天を指し、独りで吹雪と戦う快感を楽しんでいるのだ。 自分は狡猾陰険な暗殺者で、吹雪に身を隠し、異常な目標物が近づいてきていないことを知り、ひとりほくそ笑む。 彼女は、今の自分はマッチ売りの少女に一番似ていると思った。裸足で街角にうずくまり、小さい不安を抱きながら、1本のマッチに火を着け、その炎のようにかすかな希望を見つめている。 実際のところ、彼女は単に思い出の中で彷徨っている女の子たった。ずいぶん昔に家に帰るたびいつもお母さんが彼女の氷のように冷たい小さな手を暖めてくれたように、あの時彼女は両親の懐で甘え、おばあさんの特別なごちそうを食べることができた。彼女はこれまで故郷の冬が寒いと感じたことはなかった。もしかしたら、彼女にそのような寒さを忘れさせてくれる何かがあったのかもしれない。 彼女は妄想を続け、いつ果てるとも知れない道を歩き続けた。 でも、終点はそんなに遠くないようだった。 薄暗い灯りが、一面の純白の中では唯一真実の存在であり、そこには彼女が帰って来るのを待ちわびている人がいた。 彼女はあの消えてなくなった足跡を振り返って見ることもなかった。 その日は、私が仙台に来てから遭遇した、一番の大雪の日でした。電車の到着が1時間近くも遅れ、ぎゅうぎゅう詰めの電車をようやく降り、私はさらに吹雪の中を半時間近くかけて歩きました。その時見渡すかぎりすべて真っ白で、骨に突き刺さるような冷たい風のせいで私は顔を上げることさえできなかったのです。通りには人ひとりなく、世の中から見捨てられたかのようで、頼れるものは何にもないように感じられました。その感覚はかつて味わったことはないもので、強烈に私に襲いかかってきました。両親と離れ、異国にいる自分がこんなに脆弱で孤独であると感じたのはこのときが初めてでした。 このことを悟り、私は少しどうしたらよいか分からなくなっていました。私の人生はそれまでいくつかの小さな紆余曲折はあったものの、やはり順風満帆だったからです。人もうらやむ重点学校に通い、先生の眼にはよく言うことを聞く優等生に映り、周りには常に理解し合える友人がいて、成績もそう悪くはなく、まるで温室で育てられている花のように、いつも周りには守ってくれる人がいました。でも、人生の吹雪に直面したとき、私には望みを捨てずに進み続ける勇気があるでしょうか？自分が慣れ親しんだ世界や私をよく知る世界を離れ、両親の庇護から離れ、風雨の中に放り出されたとき、私は自分で言っていたように強靱でいられるでしょうか？自分が達成した小さなことを誇りに思っているが、それらも取るに足りない虚像で、瞬時に消え去る幻、触れると壊れてしまう水の泡なのではないかとさえ心配になり始めました。私はきちんと自分の人生に対するポジションを改めて考え直すべきで、そして夢を実現するために確固不動に行動を始めなくてはならないのだと思います。 そういった細々とした思考はさておき、もうすぐ春節がやってきます。ここでまず、基金会の先生方、日本と中国の友人たちと先輩たち、親戚のみなさんに、少し早いですが新年のご挨拶を申し上げます。みなさんが新しい1年を充実して楽しく過ごせますようにお祈りしています。また何よりお体を大切にしてください。海外にいるときに病気をしないよう、自分を愛してくれている人に心配をかけないようにしてください。また、私を愛してくれている人たち、私が愛している人たち、今まで少しも変わることなく私を愛してくれたことに感謝します。あなたたちの愛は私が日々を過ごすための支えとなっています。これからの歳月も愛されていると感じられるように願います。節句になると親しい人への思いが募るといいますが、今私はあなた達に対する深い懐かしさに浸っています。本当に時間が早く経てばいいのにと思います。3月に会えることをとても楽しみにしています。旅行の時は残念ながら会えなかったですが、今度はきっと私達をガッカリさせるようなことはないでしょう。

哈 喬さんの日記

大晦日

2008.02.10

大晦日　吹きすさぶ寒風を旧年を送る爆竹の音とし、空いっぱいの輝かしい彩雲を新春を迎える花火とする。また喜ばしい佳節がやってきた。でも月を共に愛でることはできない。心は風に乗って遠くに行き、山を登り峰を越え、空気の中の温かく、そしてよく知る息吹を探し求める。向こう側にいる家族たちは、この遠く遥かからの思いを感じ取ってくれるだろうか？　08年の大晦日の夜、初めて家族と過ごせなかったけど、想像していたほど寒くはなかった。私は周沢陽と学校の中国語の先生、楊先生の家で年越しした。３人、そして先生に中国語を教わってる日本人のお姉さんと本当の家族のようにテーブルを囲み、餃子を包んで「春節晩会」を観た。楊先生はすごくユーモアがあって、私たちは年齢も関係なく先生と冗談を言い合い、賑やかな雰囲気は頂点に達した。こんなに笑ったのは久しぶりのような気がする。もし翌日学校じゃなかったらあの夜は絶対に徹夜してただろうな。　あの日、春暁(同じクラスの親友)に電話した。彼女の興奮した声を聞いたら、半年間クラスメートに連絡してなかったことを思い出した。他の人は手紙を書いたりmsnでチャットしたりしてるのに、私だけが何の便りも送ってなかった。みんなの事を考えてるとずっと言ってたのに、私は一番の面倒くさがりだ。でも周沢陽は私にプレゼントをくれた。ようやくmsnを再開できることになったので、彼にいっぱい感謝しなきゃ。

哈 喬さんの日記

雑記

2008.02.16

夜は更け、濃い藍色の空の中に、一つの月だけがひっそりと、水の如き清らかさを放っている。　中国から持ってきたまだ飲み干されていないウーロン茶が、空気中にかすかな香りを漂わせ、人の思いを引き起こす。　時間は一分一秒と確実に流れさっていく。夢から醒めたかのように半年が過ぎた。私は思うままに金銭をはたいて、自分では垢抜けたように思い、若さに頼り、この長い人生がまだあと数十年はあると思っている。しかし、玉のような美人も、歳月には逆らえないということに気付いていない。　この半年、充実していないとは言えない。自分の慣れ親しんだ輪を離れ、更に広い天地に触れ、一人で生活をし、耐えること、堪えること、寛容になること、分かち合うことを学んだ。冷静な思考、正確な分析、周密な計画、持続することを学んだ。困難に立ち向かう心、不撓不屈の勇気、傲慢でも卑屈でもない態度、闊達さ、すがすがしい度量を養い、そして終始純真な心で人に接し、厳しく自分を律する。これらを成し遂げるのは容易ではない。これは挑戦、これは成長。将来どのような人物になるかという十字路の選択。
この様な千載一遇のチャンスにめぐり合えたのはとてつもない幸運であり幸福。　半年の間に、私はたくさんの人と出会い、たくさんの本を読み、たくさんの場所へ行き、たくさんの試験を受け、それなりの成績をとった。でも、私が本当に欲しい物はやはり一つも残らなかった。少し茫漠とし、少し不満が残り、少し空虚で、少しふさぎ込んでしまう。　特に、瀚清がイェールを申請した時に、日本の先生の紹介状がとても影響したと聞いたとき、私の敗北感は更に強まりました。彼みたいな人は、何をするにもとても真剣で、優秀じゃないと思うことが難しいのだけど。私だっていつも他人と比べることなんてないということはわかっている。けれど、誰だって抜きん出たいと思うのは当たり前のこと。でも私には情熱が足りないらしい。つまり根気よく続ける気力が不足している。この様では大事は成せないってことははっきりとわかってはいるのだが。　だからもう自由奔放に生きるわけにはいかない。　18歳、まさしく少女のうららかな春。春風の中で今にも開きそうな蕾が揺れているかのような。どのような美しさがあるのか、厳しい冬の中でどの様に心血が凝結するのか。　実は誰もが分かっている。成功か失敗かははどう行動したかによるのだと。　来週私は別のクラスへ行く。中国人はいない。授業もより挑戦が必要になる。新しい始まりを予告し、私は二度とチャンスを軽々と逃しはしない。　最近の風は異常なまでに強力で、地面を擦りうなりながら過ぎ去っていく。風は冷たく、雪も吹き飛ばし、まるで人を高々と放り投げたいかのようだ。　空気中には隠れた春の息吹が感じられる。あの日光と桜が美しく光り輝く季節の息吹が。

哈 喬さんの日記

新しい生活

2008.02.24

今日は本当に嬉しい。放課後自習から戻ってきた後、矢も盾もたまらずパソコンを開き、喜びを指先まで思い切り行き渡した。　今日はこのように特別な日、正月15日の元宵節。真ん丸で潤いのある月はすがすがしい輝きを振りまいている。家族団らんはできないけど、いにしえの人々が一つの月を互いに千里離れたところから見てた気持ちは体験できる。美しい出来事と言える。それに今日はある人の誕生日でもある。彼が私にしてくれた全ての事に感謝し、誕生日を祝い、健康と平穏無事を祈りたい。　今日、ようやく私の新しい生活が始まった。外国語科から特別進学科（英才教育を行う特別クラス）に転入したのだ。半年間一緒に勉強したクラスメートと離れるのはつらいけど、特進１日目にはもう新しい友達がたくさんできた（例えば私の隣はすごくシャイだけど）。みんな、私と私の国にすごく興味を持っていて、ようやく“留学生”という感覚がした。特進科のカリキュラムは外国語科よりも難しいし、わずか１週間でテストもある。それに加え、私が選択したのは文系だから、そのチャレンジ性はより大きくなる。でもその方が有意義だ。私は逆流を進み風雨と闘うのが好きだし、私の望む生活は止水のごとき平静さではなく、大波が荒れ狂う大海のような生活だから。私もようやく恥ずかしがったり怖がったりせず、自ら積極的に交流することができるようになった。チャンスは自分で掴まなければならない。自分を閉じ込めてきた私は苦い結果を味わった。もう孤独の淵に戻りたくはない。　今後どんな困難な事があろうとも、今の私は幸せだ。私は幸せのパワーを信じてる。それはきっと私にあらゆる挫折に直面する勇気をくれるだろう。　新しいスタートはこの時から始まる。

progressive

2008.05.17

中間研修した後、私の生活は思いがけないほど充実しているんだ。劉詩揚さんの生粋な日本語にひどく刺激されたせいで、いまでもそのことを気にかけている。それで、四月じゅう、かつてない意気込みで積極的にクラスメートとコミュニケーションするようになった。毎日、学校で午後8時半まで自習して、帰る途中で、クラスメートといろいろ話そうとしていた。そして、努力した甲斐があった。五月、ゴールデンウィークに、日本人家庭にhomestayしていた時、初めの下宿先の紹介を通して、hippoという家庭クラブに参加した。毎週の土曜に活動がある。活動の趣旨は子供に幼いころからいろんな言葉で勉強できるような環境を作って、彼らの視野を広げることだ。だから、メンバーたちは七カ国の言葉（英、日、韓、中、仏、独、露）で自己紹介や住んでいた町の紹介（それに応じてセットになるレーザーディスクと教科書がある）をしなければならない。あたしのような留学生も受け入れる。ホームステーしていた間、クラブが開いたパーティーに二回出て、日本に留学している多くの外国人に会った。家庭式のクラブだから、５、６歳の子供はたくさんいる。かれらと一緒にいる時、自分の子供時代に戻ったような気がして、楽しかったわ。そのような単純な楽しさはほんとうに久しぶりだったよ。ゴールデンウィーク後半のhostfamilyは一度泊まったことがある家だった。主人と奥さんは大変親切にしてくださった（ps：このhostmatherは実際の年齢より十歳以上若い、若いときっと美人だろう）。そして、奥さんと仙台の博物館に行った。やっと魯迅先生の彫像が見られた。自分にも先生の国を豊かにし、人を強くするという願いを分かるような気がした。今の私にも同じ気持ちをしてるから。そして、思いがけないうれしいことがあった。私たち、たまたまに羽子板の押絵の展覧会を見に行った。これらのきれいな工芸品を作ったのはおばあさんたちなのだ。私が留学生だとわかると、とても親切で、自分の作品を紹介してくれた。私は日本の伝統文化に大変興味を持っているから、お土産に押絵を一枚買いたいと思うが、おばあさんたちに作ってあげると言われて、感動された。仙台の方はそんなに親切で、やさしいって！この意義のある、特別なプレゼントをちゃんと大事にしまっておこうと思う。とりあえず、その間、楽しくて、充実していた。今晩、友達と青葉城祭りを見に行く。明日、和田さん一家（hostfamily）と野球の試合を見に行く。なんで、ここでの生活が慣れたばかりなのに、まもなく国へ帰らなきゃ？時間が止まってほしいなあ、その楽しさをよく味わいたい、深く、深く心に残したい！

後からわいてきた気持ち

2008.05.17

涙目で微笑みながら別れていく、 この人生で友が出来、飲みつくす。 風はゆっくりと私の髪を吹いて、雨は程度よく私の服を濡らして、満開の桜でもきれいな赤色になり、行ったりきたりしているような夢みたい。 この曖昧の雨の中、機械的な動きすべても曖昧なこの細い雨に入り込んでいった。私は軽く濡れた空気を吸いこむ、埃や花の香りも一緒に。私は静かに無人の小路を歩く、泥も落ちた花と共に。この曖昧な雨の中、先日の爽快な楽しさと悲しみをはっきりと思い出したのだ。 この半年は自分はとても楽しいと思った。特に「特進」に転入した後、勉強生活が充実で、友達も増えて、お互いの交流も順調だった。しかし今回の大阪の旅がなかったら、これはきっと自分の最大の成功だ、私は最大の幸せを得たと思ったかもしれない。そうだ、もし今回の大阪の旅がなかったらね。 私は笑うのが好きだ。友達と一緒のときは私は女の子らしく口を隠しながら微笑むときもあれば、たまに爽快にハッハッと笑うときもある。けど私は永遠に無遠慮に、脅迫的なほど、息が出来なく、筋肉痛みたいに、歩く気力もないほど笑うことがない。日本の友達と一緒にいる時、私は自分の出来る範囲で表現し、分かることばを用いながら、使えるように学ぶ。雄弁さわやかに、止まらない程自分の感情を朝三時までしゃりまくって、意識がないぐらい眠くても決して席を離れないことがない。私は歌を歌うことも好き、日本の友達とカラオケに行った時、自分の得意の歌を披露することもしばしば、友達が楽しむ時も拍手して盛り上がる。けど我を忘れて歌ったり、熱狂過ぎるほど踊ったり、体中のすべての細胞、すべての神経がメロディに合わせて興奮することはない。私はよく泣く。この半年、私は泣いたことがないけど、別れの時に本当につらくて、骨までつらくて、心肺までつらくて、涙が止まらないぐらいつらくて、抑えられなかった。離れていくのは私の同級生や友達ではなく、自分の肉、自分の骨、自分の心のようだ。四日間の集まりは夢のようだ、けどその寂しそうな表情はいまだに目の前で浮かぶ。それは消滅するのではなく、もっと深まっていく幸せと悲しみが心に刻まれる。自分が大切にしている友情は天地を感動させられるほどだとまでは言えないが、せめて、自分の天地は覆ってしまった。 あの日、宿舎に戻った後、友達達はまだ学校で春講習を受けていた。私のホームスティーはまだ決まっていない。突然、大きな失意が私を崩壊させた。私はガラリとした宿舎の中で大きい声を出して歌った。最初知り合った時、あの楽しい時には戻れない、車のバックミラーみたい。あの時の約束、どのぐらい残ってる？誰かもう重要じゃないと言ってるのに、私はなぜまた信者のように祈る？内容はすべて時間の流れと一緒に忘れられたかも知れない。空向こうの流星、クエッションマークを付けて、幸せは私達が作るものなの？。。。。。。歌いながら泣く、それでいいのだ。私は叫んで、しゃくり泣いて、それで抑えても、やはり涙は黙って出て落ちる、一滴、一滴、冷たい床に。 あの歌、私のクラスの歌。私達が自分で作った歌詞とメロディだ。自分達を感動させ、自分達への満足、自分達への励ましだ。私たちは他の人がどう見てるのかを気にしないことはない、未知の道を心配しないことはない、人生には必ず別れが尋ねに来ることも知らないことがない。ただ一緒にいる時、心の中ではもうお互いしかいない。私たちはずっと自分達は独立で大人だと思ってきた、けど分かれてからの半年とこの四日間、自分は感情的にどれだけ弱いのかが分かってきた。少しだけの揺れでも、この心が潰れそうだ。 振りかえってみると、四年間の協力、困難、私たちは輝いた、咲いた、誇りに思った、頑張った。今になって記憶が薄くなっても、落ちても、私たちはまた手をつないで、肩を寄せて、心を信じて、夢に向けて追いかけられる。縁は何でしょう？五百回の振りかえによるすれ違い？それとも百年の修業による伴？再度振りかえる時に偶然の出会いの美しさ？ もし可能だったら、私は永遠の生命がほしい。一瞬で終わる繁華のためではない、広い世界のこの俗世間のためでもない。あの時悩みのない爽快の幸せをもう一度感じたいだけ、あなた達との最も純粋で、善良で、美しい友情を続けたいだけだ。 中国にある古詩：「上邪!我欲与君相知,长命无绝衰。山无棱，天地合，江水为之竭。冬雷震震，夏雨雪，乃敢与君绝！」 （神様！私は君と出会い、生命は絶えず。山には角がなく、天地がひとつとなり、洪水が渇きを潤す。冬に雷鳴が轟き、夏に雨雪が降ろうとも、僕は君と別れない！） 友を得、幸せ、嬉し！ この文を我が友に送る PS：この文を書いた時、中間テストまであと半月。私もやっとネットする時間が出来て、なんともうこの5月になった。自分の感動を心の中で繰り返しながら、文字にしたものだ。パソコンの前で、一晩中打っていた。自分の表現は拡大ではないと思う。これでも自分の気持ちの一万分の一でも表してないと思う。最後の詩は変わらぬ愛情を表現する詩だけど、私にとって、千年前からの約束だからこそ、自分のこの友情に対する大切な気持ちを表現が出来ると思ってる。実際に心の中のいろんな感覚は、意思を伝わるには、言葉ではたりない。

哈 喬さんの日記

合宿

2008.06.24

やっと試験が終わった。最近あまり休んでなくて、先週の土曜日は一時間しか寝なかった。 ヒッポのクラブの合宿に参加しました。宮城県松島の近く、参加者はみんなこのクラブのメンバーです。私達の目標は一般的でない勉強する方法で多言語を学ぶことで、試験や、文法と単語の勉強ではなく、赤ちゃんのように聞くこととしゃべることからの方法でした。今回の合宿は約１００人近く参加しました。私以外に一人のインド人と一人のドイツ人がいました。みんなは一緒に歌ったり、踊ったり、しゃべったり、笑ったりして、すごく楽しかったです。私は司会役もやってみました。中国語、英語、日本語、韓国語の四つの言葉でゲームのルールを訳しました。前半の三種類の言語はよかったのですが、韓国語はここに来てから学び始めたから、あの場に韓国人がおらず、ばれなくて済んでよかったです。土曜日の夜、私達は夜の１１時から翌朝の４時半までしゃべっていました。それからあの二人の外国人と海辺で５時半まで散歩していました。途中で日本の警察官に止められ、身分証明書を提示させられました。多分明け方に三人の外国人が海辺で散歩するのは怪しいかもしれません？でも驚いたけど、危険なことが無かったから、ついでに私も英会話の練習ができました。戻ってから一時間しか寝なくて、６時半にシャワーを浴びて、７時半に新しい一日はまた始まりました。疲れて仕方が無かったですが、とても楽しかったです。あと、レポートを提出する時間を間違いました。実はもう書きましたが、まだ先生に見せていません。明日か明後日提出ができるかと思います。頑張って、漢字に変換のできるひらがなを全部漢字にしようとしていますが、文字数は二千字を超えてしまっちゃうかもしれません。また先生にお手数をかけてしまい、本当に申し訳ありません。